



ティー・ロウ・プライス 米国バリュー株通信 Vol. 15

ティー・ロウ・プライス 米国割安優良株式ファンド バリュー株式をポートフォリオに組み入れる意義

基準価額と
分配金

1ページへ

なぜ今、
バリュー株式
なのか？

2-3ページへ

グロース株式
への偏りが
気になる方へ

4ページへ

なぜ、ティー・
ロウ・プライス
のバリュー株
投資なのか？

5-6ページへ

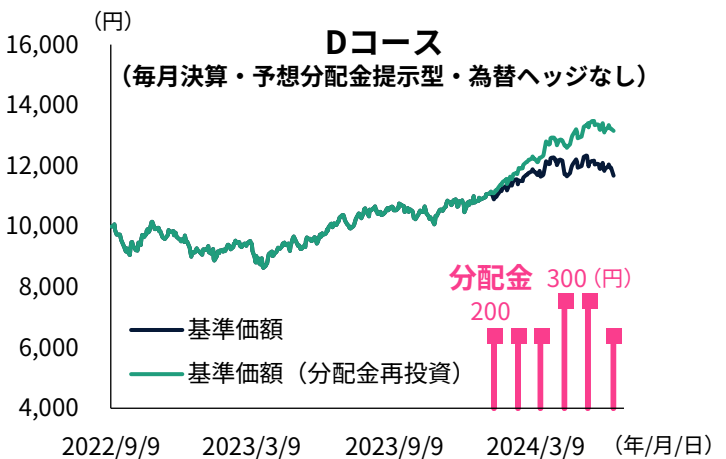
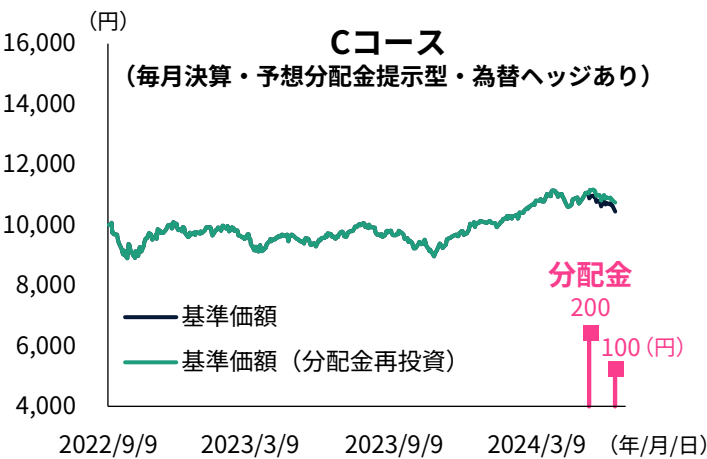
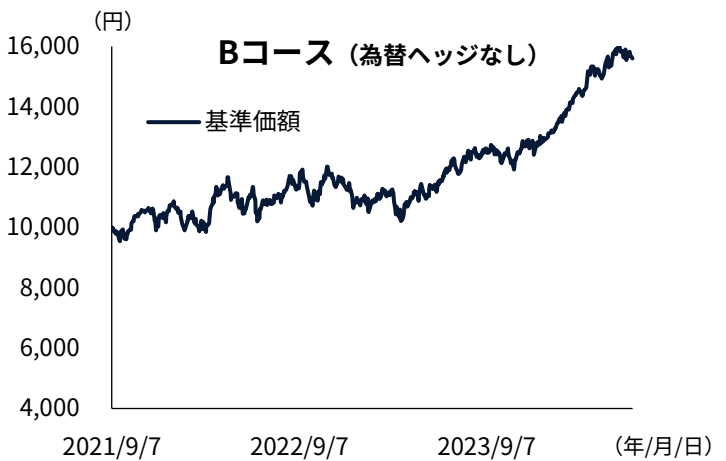
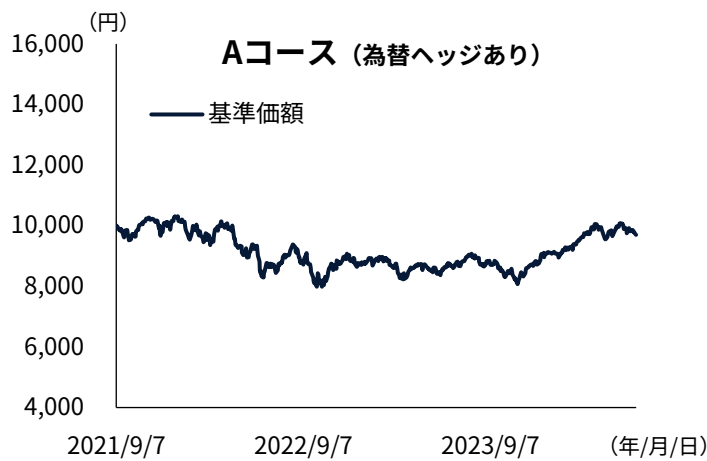
組入上位
20銘柄比較

7ページへ

ティー・ロウ・
プライスの
アクティブ運用

8ページへ

基準価額と分配金



Cコース 分配金実績 (累計300円)

第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
'24/1/15	'24/2/15	'24/3/15	'24/4/15	'24/5/15	'24/6/17
0円	0円	0円	0円	200円	100円

初分配

Dコース 分配金実績 (累計1,400円)

第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
'24/1/15	'24/2/15	'24/3/15	'24/4/15	'24/5/15	'24/6/17
200円	200円	200円	300円	300円	200円

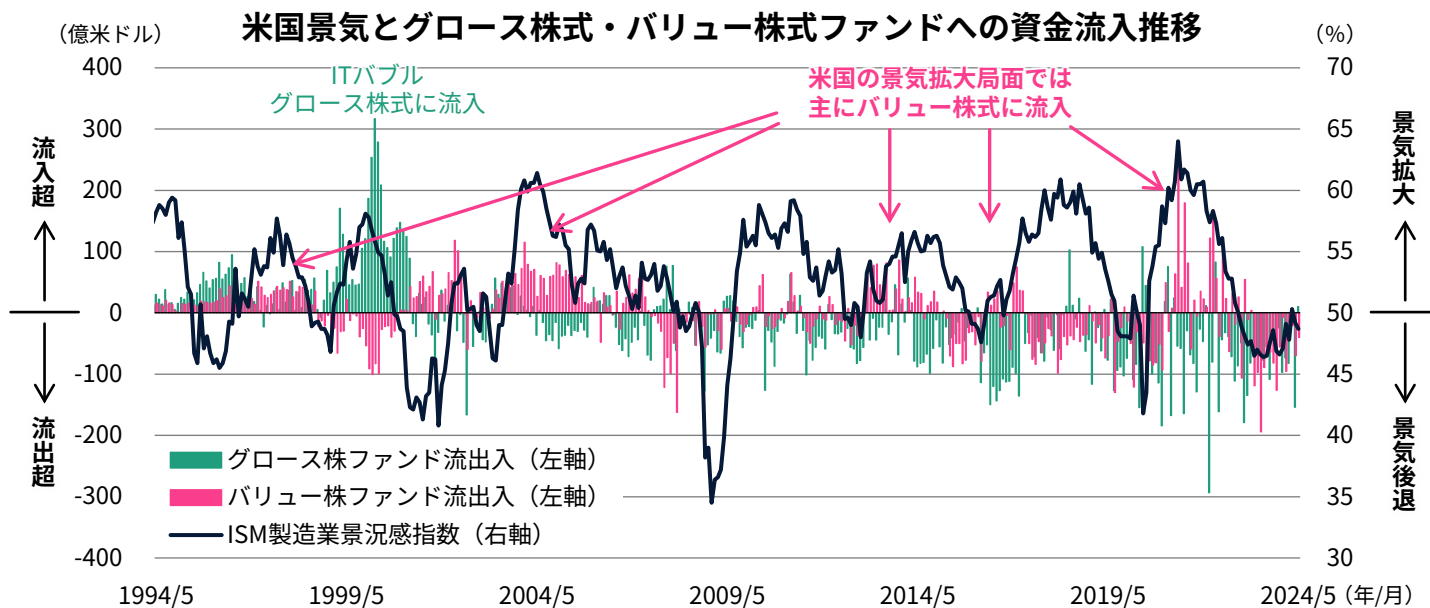
初分配

期間：A/Bコース 2021年9月7日（設定日）～2024年6月17日、C/Dコース 2022年9月9日（設定日）～2024年6月17日

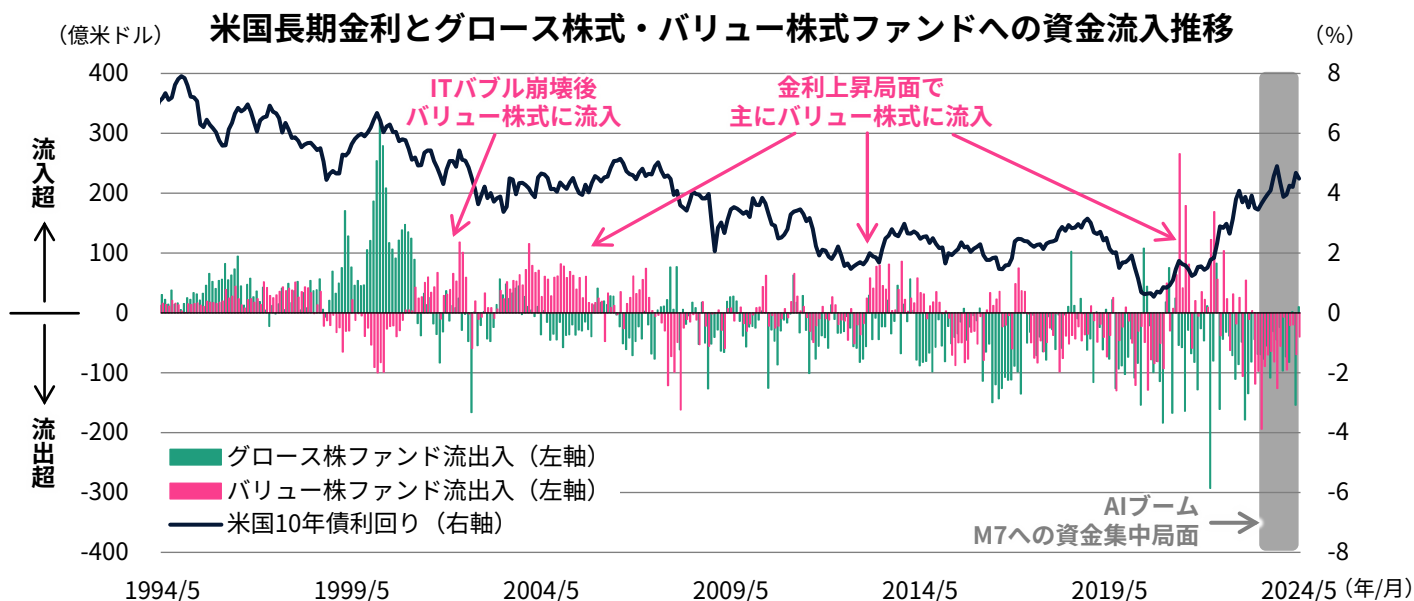
- ・ 基準価額は1万口当たり、基準価額及び基準価額（分配金再投資）は信託報酬控除後（「ファンドの費用」参照）のものです。
- ・ 基準価額（分配金再投資）は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。詳しくは「分配方針」をご覧ください。
- ・ 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

なぜ今、バリュース株式なのか？

過去のバリュース株式への資金流入を見ると、米国景気や金利との連動が見て取れます。例えば、米国の景気先行指標であるISM製造業景況感指数と並べてみると、ITバブルなどの例外はありますが、主に50%を上回る景気拡大局面において、グロース株式を上回るバリュース株式への流入が観測されました。



米国の長期金利との動きについても確認してみると、金融関連銘柄が多く、また金利上昇局面は一般的に景気拡大局面であるため景気と業績が連動する銘柄を多く含むことから、金利上昇局面ではバリュース株への流入が大きいことが分かります。ただし、2000年前後のITバブルや足元のAIブーム、マグニフィセントセブン (M7) への資金集中などの特殊な局面においては、バリュース株式への流入が鈍るか、グロース株式に大きく流入する傾向にありました。ITバブル局面においてはバブル崩壊後、バリュース株式への資金流入も観測されました。



出所：モーニングスター、ファクトセットのデータをもとにティール・ロウ・プライスが作成 期間：1994年5月末～2024年5月末
 ・グロース株ファンドはモーニングスター・カテゴリーが「米国大型グロース」「米国中型グロース」「米国小型グロース」、バリュース株ファンドはモーニングスター・カテゴリーが「米国大型バリュース」「米国中型バリュース」「米国小型バリュース」に属する米国オープンエンド・ファンドおよびETFの推定資金流出入額を用いて算出しています。
 ・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

なぜ今、バリューストックなのか？

では、今後バリューストックに追い風になる環境として、どのようなものが想定されるのでしょうか。

1. 景気の面からみると、足元でまちまちな経済指標は観測されるものの、引き続き底堅い米国景気が継続すれば、景気と業績が連動する企業が多いバリューストックには追い風となることが期待されます。
2. 足元ではAI関連への熱狂やマグニフィセントセブン（M7）への資金集中を背景にバリューストックへの流入は鈍化していますが、今後市場心理がリスクオンに傾いていく環境になれば、広範な銘柄に物色の裾野が広がり、資金がバリューストックに向かうことも想定されます。
3. また、米連邦準備制度理事会（FRB）は年内の利下げ姿勢は継続していますが、インフレ低下スピードの減速を受けて、6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では年内の利下げ予想回数が1回にまで減少しました。今後、利下げ観測がさらに後退し、金利が高止まりするような環境となれば、バリューストックに追い風になると見込みます。底堅い米国景気やインフレ動向をみると、可能性として十分に考慮すべきシナリオだと考えます。

バリューストックへの追い風 シナリオ

1
引き続き
堅調な米国景気

2
市場心理が
リスクオンに傾き
物色の裾野が
拡大

3
FRBによる
利下げ観測後退、
金利高止まり

注視すべき シナリオ

1
AIブームの継続

2
安心感の高い
超大型銘柄への
逃避

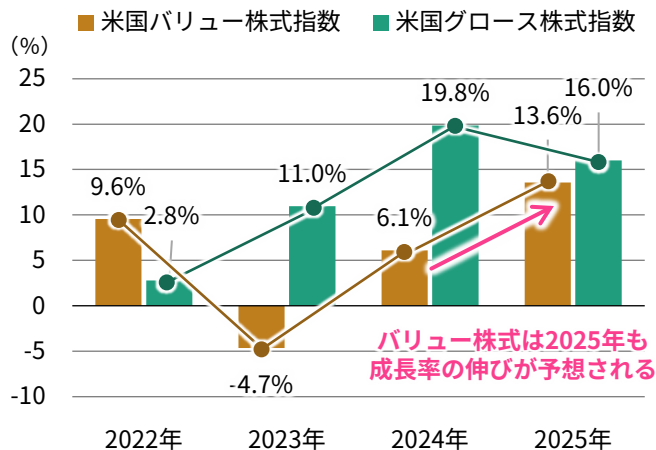
一方で注視すべきシナリオもあると考えています。例えば、AIのブームが今後も長期で続くと仮定すると、関連企業株式への資金集中が続く可能性があります。また、コロナショックのように市場に大きな影響を与えるショックが起きた場合に、その安心感からアップルやマイクロソフトのような超大型銘柄が逃避先となる可能性です。いずれもバリューストックからの資金流出要因となり得ます。

しかし、既に一部の超大型テクノロジー銘柄に多くの資金が集中しており、米国大型株式指数であるラッセル1000指数では28%超、S&P500指数では30%をM7が占めています（2024年5月末時点）。

また、利益成長率の対前年比予想を見るとグロース企業は2024年にピークに達したあと、2025年は低下する一方、バリューストック企業は2023年を底に今後上昇していくと予想されています。

こうした点から今後バリューストックに注目が集まり、資金が流入する局面が訪れる可能性があると考えています。

グロースとバリューストックの利益成長率予測（対前年比）



出所：ファクトセットのデータをもとにティール・ロウ・プライスが作成 期間：2022年～2025年

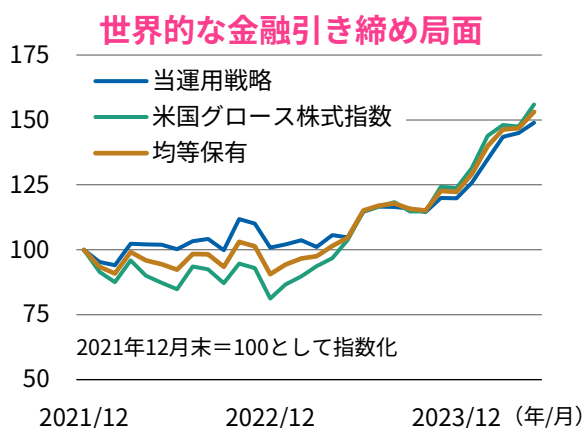
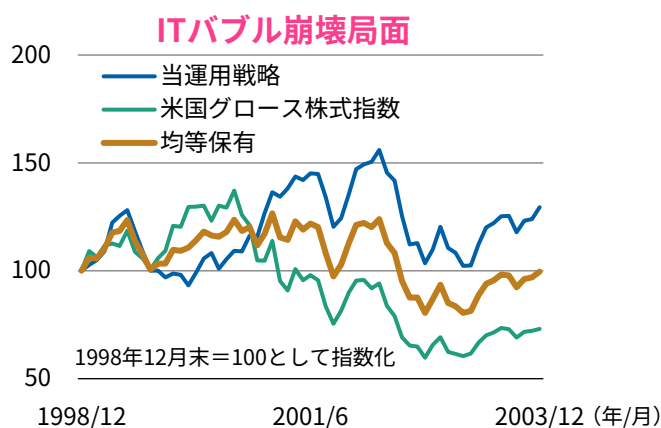
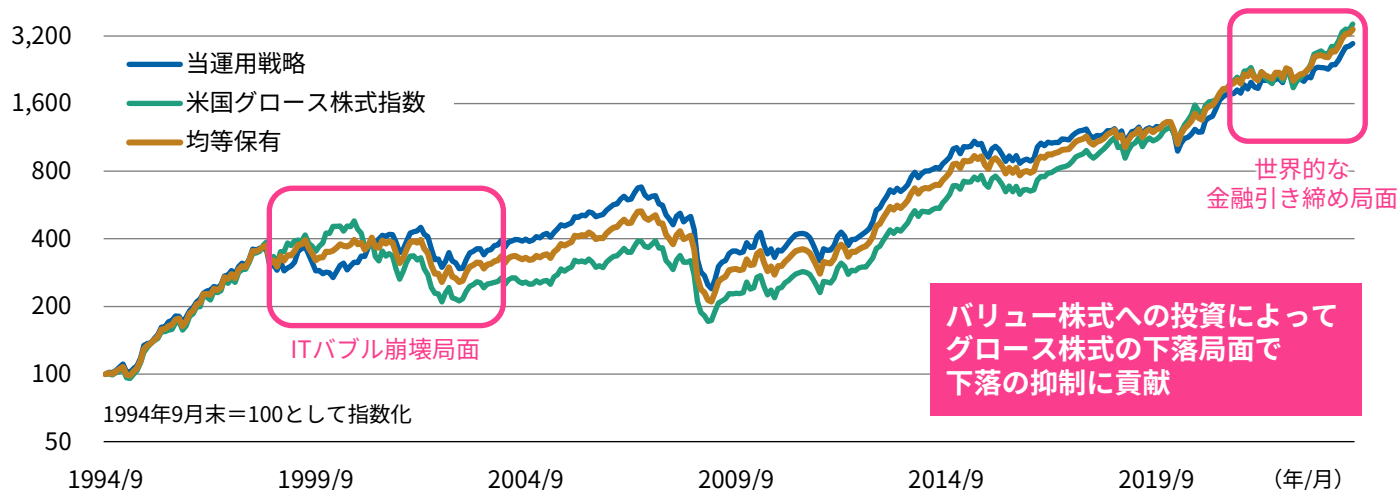
- ・ 2024年以降はファクトセットが集計した2024年6月11日時点のアナリスト予想値を使用しています。
- ・ 米国バリューストック指数はラッセル1000バリューストック指数、米国グロース株式指数はラッセル1000グロース指数を使用しています。
- ・ 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

グロース株式への偏りが気になる方へ

グロース株式はその成長性から株価が大きく上昇する可能性を秘めています。市場環境の影響を受けて大きく下落するなど、値動きが大きい特性があります。

投資資産がグロース株式に偏りがあり、大きな値動きを懸念される投資家の皆さまにおいては、グロース株式の成長性を見込みながらも、ポートフォリオにバリューストックを組み入れることで、ポートフォリオ全体では値動きを抑制しながら安定したパフォーマンスを享受する方法もあります。

当運用戦略と米国グロース株式指数および均等保有時のパフォーマンス（信託報酬控除後、円ベース）



1994年9月末～2024年5月末	当運用戦略	米国グロース株式指数	均等保有
リターン（年率）	12.1%	12.8%	12.6%
リスク（年率）	18.9%	20.0%	18.7%
投資効率	0.639	0.643	0.676
最大ドローダウン	-64.7%	-64.3%	-60.4%

上記は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されている代表ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

出所：FTSEラッセルのデータをもとにティール・ロウ・プライスが作成 期間：1994年9月末～2024年5月末

- 当運用戦略の代表ファンドの日本円ベースの月次リターンを用いて計算しています。信託報酬は当ファンドの年1.325%（税抜）に各時点での日本の消費税率を適用し、1994年9月～1997年3月は1.36475%（税込、消費税3%）、1997年4月～2014年3月は1.39125%（税込、消費税5%）、2014年4月～2019年9月は1.4310%（税込、消費税8%）、2019年10月以降は1.4575%（税込、消費税10%）を使用しています。
- 米国グロース株式指数はラッセル1000グロース指数（税引前配当込、日本円ベース）を使用しています。
- 上段グラフは、長期間では各データの値が大きくかき離れてくるため、期間を通して値動きの傾向が分かりやすいように対数グラフで表示しています。左軸の目盛りにご注意ください。
- 上記は過去の実績・状況およびシミュレーションであり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

なぜ、ティー・ロウ・プライスのバリューストック投資なのか？

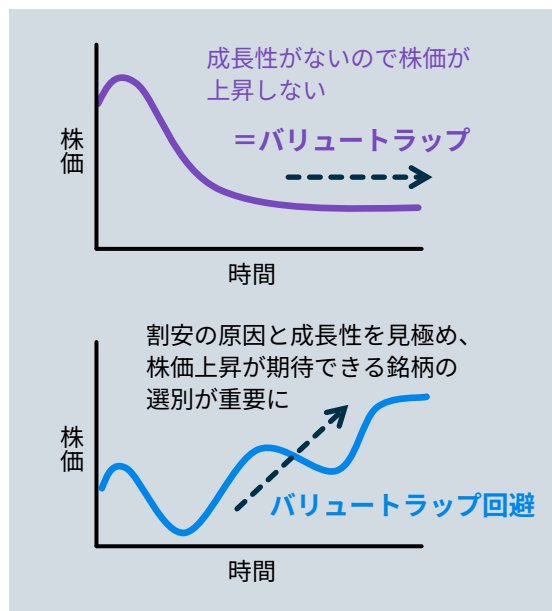
バリューストック投資をする上で、投資したものの割安なまま放置され、株価が上昇しない「バリュートラップ」に注意しなければなりません。

割安の要因は企業ごとに様々ですが、バリュートラップに陥る原因は、その「割安要因」を見極められないことにあります。

ティー・ロウ・プライスは、多様な割安要因を見極めるために、グロース株投資で長年培ってきた企業調査・分析のプラットフォームを活用します。これにより、企業の「割安要因を解消する力」と「成長性」を兼ね備えた企業の発掘を可能にします。

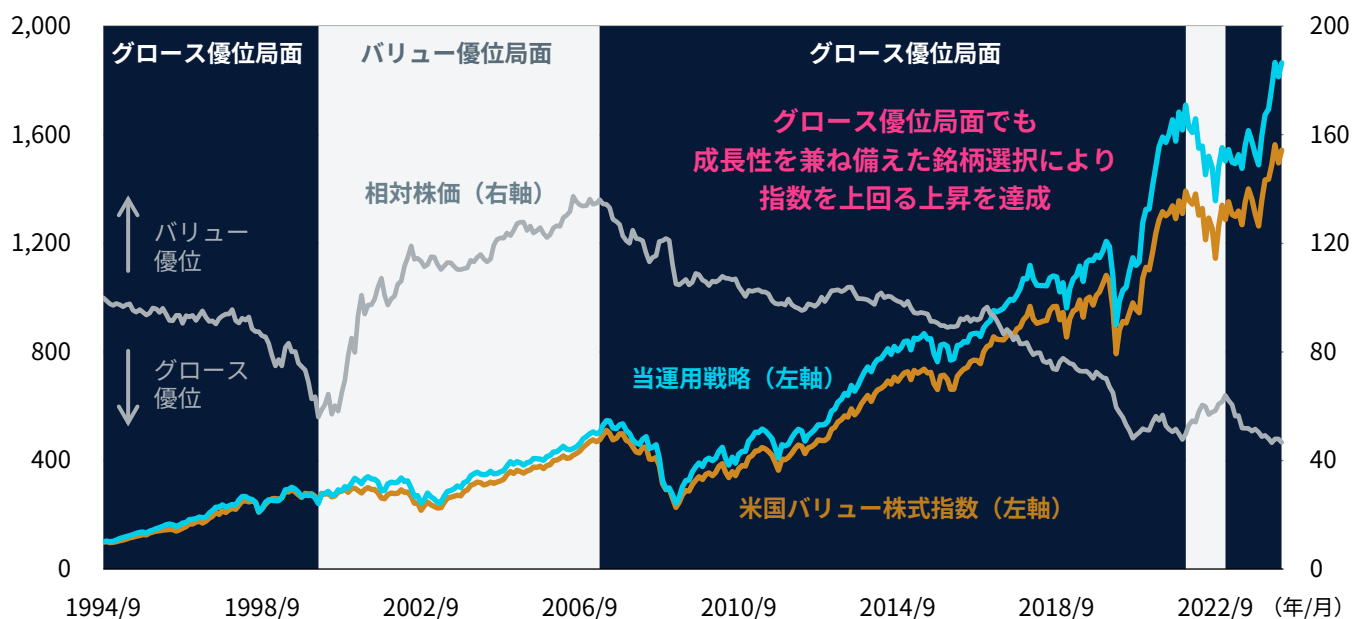
成長株投資家が行うバリューストック投資だからこそ、割安要因を見極め、成長性を兼ね備えた魅力的な投資機会の発掘を可能にします。

バリュートラップとは…



・上記イメージ図は情報提供を目的として作成したものであり、将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

当運用戦略と米国バリューストック指数のパフォーマンス（信託報酬控除後、米ドルベース）



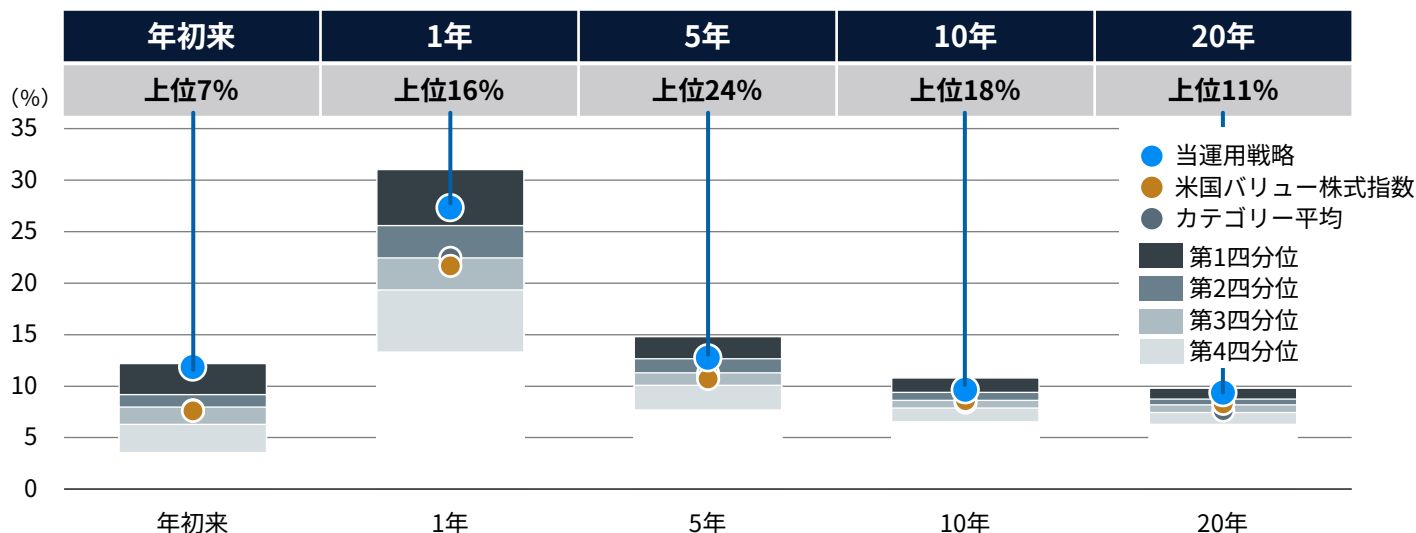
上記は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されている代表ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません

出所：FTSEラッセルのデータをもとにティー・ロウ・プライスが作成 期間：1994年9月末～2024年5月末

- ・左軸、右軸ともに1994年9月末=100として指数化
- ・当運用戦略の代表ファンドの米ドルベースの月次リターンを用いて計算しています。信託報酬は当ファンドの年1.325%（税抜）に各時点での日本の消費税率を適用し、1994年9月～1997年3月は1.36475%（税込、消費税3%）、1997年4月～2014年3月は1.39125%（税込、消費税5%）、2014年4月～2019年9月は1.4310%（税込、消費税8%）、2019年10月以降は1.4575%（税込、消費税10%）を使用しています。
- ・米国バリューストック指数はラッセル1000バリューストック指数（税引前配当込、米ドルベース）を使用しています。
- ・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

なぜ、ティール・ロウ・プライスのバリューストック投資なのか？

モーニングスター・カテゴリーにおける期間別リターンとランキング



上記のいずれの期間においても相対的に良好なリターンを獲得し、米国バリューストック指数およびカテゴリー平均を全期間で上回っています。

上記は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されている代表ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

出所：モーニングスターのデータをもとにティール・ロウ・プライスが作成 2024年5月末時点

- 当運用戦略の代表ファンドのリターンとランキングです。モーニングスター・ダイレクトが集計する各ファンドの運用報酬等控除後の米ドルベース基準価額で算出しています。
- 米国バリューストック指数はラッセル1000バリューストック指数（税引前配当込、米ドルベース）を使用しています。
- モーニングスター・カテゴリーはいずれもモーニングスターが分類する「米国大型バリューストック」を使用しています。第1～4四分位は、カテゴリーグループ内でそれぞれ上位から5%～25%、25%～50%、50%～75%、75%～95%に属する各ファンドの数値の範囲を表しています。上位5%と下位5%は除外しています。
- 著作権はモーニングスターに帰属します。詳しくは後記の「モーニングスターについて」をご覧ください。
- 上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

今後の見通しと運用方針

堅調な米国景気を反映した好況な株式市場と金融政策次第でボラティリティが高まるリスク、双方を注視

年初来で、インフレ鈍化のスピードが減速したことを受けて、米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ観測が後退したにも関わらず、米国株式市場は好調でした。その背景には堅調な米国企業の決算発表やAI関連業界の活況があります。経済指標はまちまちな内容が一部で見られるものの、米国景気がさらに好転する可能性もあると見ており、そうした環境で恩恵を受けると考えられる銘柄（景気と業績が連動する特性を有する銘柄等）への配分を増やしています。一方で、インフレが再び上昇に転じ、FRBが現在の緩和姿勢から転換する可能性もあります。そうなれば、株式市場のボラティリティが高まる局面が訪れることも想定されることから、ポートフォリオの調整を慎重に行っています。

バリュエーション規律を厳守し、幅広い市場環境に対応できる銘柄を発掘・投資

こうした先行きが不透明な環境においては、よりバリュエーションが重要になると考えています。株価が上昇した銘柄は、割安度合いでの魅力低下と下落リスクを考慮して、売却を行っています。一方で、割安要因を特定し、成長性を兼ね備えた質の高いバリューストック銘柄を発掘し、投資することで、多様な市場環境に対応できるポートフォリオの構築に繋がると考えています。引き続き、バリュエーションの規律を厳守し、成長株投資家ならではのバリューストックファンドの運用を行う方針です。

- 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ご参考：2023年12月末と2024年4月末の組入上位20銘柄の比較

バリュエーションの規律を厳守しながら、株価が上昇した銘柄を削減。一部の大型テクノロジー銘柄に資金が集中する局面から幅広い銘柄に物色が広がる兆候を受けて、景気好況局面で恩恵を受ける銘柄やFRBの金融政策の行方次第では厳しい市場環境になることも想定して、質の高い銘柄への投資を実施。

2023年12月末時点（組入銘柄数：117）			
	銘柄名	セクター	比率
1	バークシャー・ハサウェイ	金融	3.5%
2	JPモルガン・チェース	金融	3.1%
3	エレバンスヘルス	ヘルスケア	2.8%
4	バンク・オブ・アメリカ	金融	2.2%
5	ファイサーブ	金融	2.1%
6	センコーラ	ヘルスケア	1.9%
7	モンデリーズ・インターナショナル	生活必需品	1.7%
8	ケンピュー	生活必需品	1.6%
9	CSX	資本財・サービス	1.6%
10	プロクター・アンド・ギャンブル (P&G)	生活必需品	1.6%
11	テキサス・インスツルメンツ	情報技術	1.6%
12	フィリップ・モリス・インターナショナル	生活必需品	1.5%
13	ウェルズ・ファーゴ	金融	1.5%
14	ゼネラル・エレクトリック	資本財・サービス	1.5%
15	ウォルマート	生活必需品	1.4%
16	ユニオン・パシフィック	資本財・サービス	1.4%
17	シェブロン	エネルギー	1.3%
18	NXPセミコンダクターズ	情報技術	1.3%
19	コノコフィリップス	エネルギー	1.3%
20	ジョンソン・エンド・ジョンソン (J&J)	ヘルスケア	1.3%

2024年4月末時点（組入銘柄数：119）			
	銘柄名	セクター	比率
1	バークシャー・ハサウェイ	金融	3.4%
2	JPモルガン・チェース	金融	3.1%
3	エレバンスヘルス	ヘルスケア	2.8%
4	ファイサーブ	金融	2.3%
5	ケンピュー	生活必需品	2.2%
6	コノコフィリップス	エネルギー	2.0%
7	ジョンソン・エンド・ジョンソン (J&J)	ヘルスケア	2.0%
8	ハリバートン	エネルギー	1.8%
9	バンク・オブ・アメリカ	金融	1.7%
10	センコーラ	ヘルスケア	1.6%
11	プロクター・アンド・ギャンブル (P&G)	生活必需品	1.5%
12	アストラゼネカ	ヘルスケア	1.5%
13	アメリカン・エキスプレス	金融	1.5%
14	テキサス・インスツルメンツ	情報技術	1.5%
15	コカ・コーラ	生活必需品	1.4%
16	CSX	資本財・サービス	1.4%
17	ワブテック	資本財・サービス	1.4%
18	ゼネラル・エレクトリック	資本財・サービス	1.4%
19	メルク	ヘルスケア	1.4%
20	ユナイテッドヘルス・グループ	ヘルスケア	1.3%

20位外に下落した銘柄

全売却した銘柄

20位内に上昇した銘柄

新規購入した銘柄

- ・ティール・ロウ・プライス米国割安優良株式マザーファンドの情報です。構成比はすべて対純資産総額の比率です。
- ・セクターは世界産業分類基準（GICS）を使用しています。ティール・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は最終ページをご確認ください。
- ・上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- ・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



創設者
トーマス・ロウ・プライス Jr.

No.1
米国機関投資家向け
米国株式アクティブ
運用資産残高^{*1}


約233兆円の
運用資産^{*2}

お客様の成功
こそが、
私たちの成功


約920名の運用
プロフェッショ
ナルが協働^{*3}

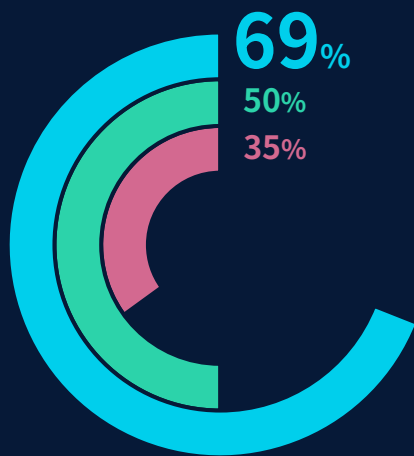
85年超
1937年、
ボルティモアにて
創業

アクティブ
運用の雄

*1 Pensions & Investmentsによる年次調査に基づく、適格退職年金、基金、財団などの米国の非課税機関投資家向けの運用資産残高（外部委託を除く自家運用分、2022年末時点）。ティール・ロウ・プライスの運用資産残高は、ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクのみが集計対象です。
*2 2024年3月末時点。1米ドル=151.345円で換算。グループ全体の運用資産には、ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよび関連投資顧問による運用資産残高を含みます。
*3 2024年3月末時点。

米国株式ファンドにおいて 10年間のパフォーマンスでインデックスファンドを上回った割合

2023年12月時点



ティール・ロウ・プライス^{*4}
運用残高トップ5のアクティブ運用会社平均^{*5}
全アクティブ運用会社平均^{*6}

“ティール・ロウ・プライスの米国株式ファンドは、インデックスファンドを上回るリターンを長期かつ着実に実現してきました。この長期的な実績は、厳格なリサーチと数字にとらわれず隠れた投資機会を発掘してきた深い洞察によるものです。”

出所：モーニングスターのデータをもとにティール・ロウ・プライスが作成
 ・ 10年間の月次ローリング・リターン（2004年1月1日～2023年12月31日）を基に算出。比較対象とするインデックスファンドは、モーニングスター・ダイレクトで「インデックスファンド」に分類され、分析対象のアクティブファンドと同じモーニングスター・カテゴリーに属する米国株式ファンド（米国の投資信託およびETF、以下同様）。全てのアクティブ運用会社は、ティール・ロウ・プライスを除く、アクティブ運用を行う米国株式ファンド。分析は、バッシュファンドが存在するモーニングスター・カテゴリー内の全ての米国株式ファンドを対象に同一カテゴリーレベルで実施。最長シェアクラスのリターンを使用。ローリング・リターンは、リターン計測期間の起点と終点を1ヵ月ずつずらしながら10年の保有期間のリターンを計算。
 *4 24ファンド（延べ2,708期間）
 *5 ティール・ロウ・プライスを除く166ファンド（延べ16,090期間）。本分析で対象とした全ファンドにおける2023年12月末時点のアクティブ運用資産残高上位5社が対象。
 *6 ティール・ロウ・プライスを除く1,826ファンド（延べ160,913期間）。
モーニングスターについて:著作権はモーニングスターに帰属します。当資料に含まれる情報は、（1）モーニングスターおよび情報提供者のものであり、（2）複製や配布を禁じ、（3）情報の正確性、完全性、迅速性は保証されておりません。モーニングスターと情報提供者はこの情報の使用により被る損害・損失に対し責任を負いません。
 ・ 上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色

1 ティー・ロウ・プライス 米国割安優良株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、米国の株式の中で、企業の本質的価値に比較して過小評価されていると判断される株式を中心に投資を行います。大型株式への投資を基本としますが、中型株式等へも投資する場合があります。なお、米国以外の企業にも投資することがあります。

2 銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ¹⁾」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス²⁾のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。
*1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。
*2 委託会社およびその関連会社をいいます。

3 <Aコース/Cコース>
実質外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
<Bコース/Dコース>
実質外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行いません。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

当ファンドが有する主なリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

株価変動リスク

当ファンドは、米国の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

為替変動リスク

AコースおよびCコースは、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。また、為替ヘッジを行う際は、通貨間の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があり、ファンドの基準価額に影響します。

BコースおよびDコースは、原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

分配方針

<Aコース/Bコース>

■ 年1回の決算時(毎年12月15日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の分配方針に基づき分配を行います。

- ・分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。なお、必ず分配を行うものではありません。
- ・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

<Cコース/Dコース>

■ 毎月の決算時(毎月15日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の分配方針に基づき分配を行います。

- ・分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。なお、必ず分配を行うものではありません。
- ・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

■ 毎決算日の前営業日の基準価額に応じて、以下の金額の分配を行うことを目指します。

決算日の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

※毎決算日の前営業日の基準価額の水準に応じて上記の表に基づく分配金額を支払うことを原則としますが、その金額は変動するものであり、基準価額の水準によっては分配金が支払われないこともあります。したがって、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
 ※基準価額が上記の表に記載された水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配が次期決算以降も継続されるというものではありません。
 ※分配金の支払いにより純資産総額は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。
 ※分配金の支払いのために、現金化またはポートフォリオ再構築を行うための追加的な取引コスト等が発生する場合や現金の保有比率が高まる場合があります。
 ※「収益分配金に関する留意点」もあわせてご覧ください。

収益分配金に関する留意点

■ 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

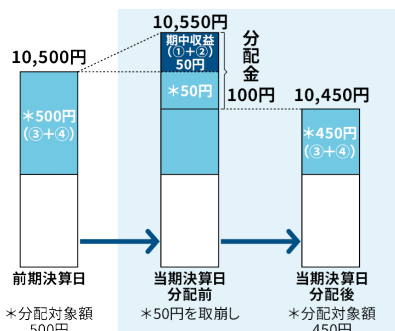
投資信託で分配金が支払われるイメージ



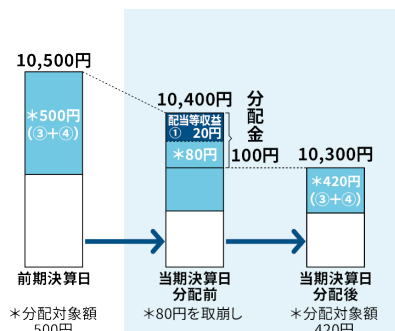
■ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



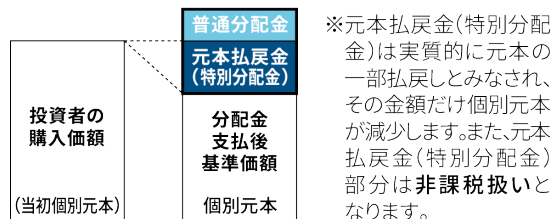
※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

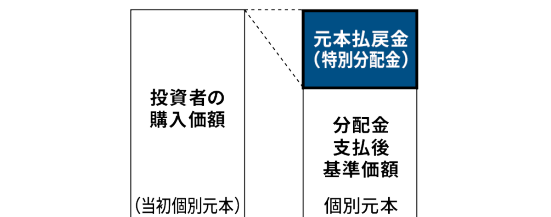
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

■ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。(特別分配金) 分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ティール・ロウ・プライス 米国バリュース株通信 Vol. 15
バリュース株式をポートフォリオに組み入れる意義

お申込みメモ

購入時	購入単位	一般コース:1万口以上1口単位または1万円以上1円単位 自動けいそく投資コース:1万口以上1口単位または1万円以上1円単位 ※購入後のコース変更はできません。詳しくは販売会社にお問い合わせください。	その他	信託期間	原則として無期限 (設定日:2021年9月7日(Aコース/Bコース)、2022年9月9日(Cコース/Dコース))
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・各ファンドについて受益権口数が50億口を下回るようになった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合 ・信託契約を解約することに正当な理由がある場合
	購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。		決算日	Aコース/Bコース:毎年12月15日(休業日の場合は翌営業日) Cコース/Dコース:毎月15日(休業日の場合は翌営業日)
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		収益分配	Aコース/Bコース:年1回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 Cコース/Dコース:毎月の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。		信託金の限度額	各ファンドについて、1兆円を上限とします。
申込について	申込締切時間	午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。		公告	公告を行う場合は、日本経済新聞に掲載します。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、1日1件10億円を超える換金はできません。また、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。		運用報告書	AコースおよびBコースは毎年12月の決算時および償還時に、CコースおよびDコースは毎年6月、12月の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。
	購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。		スイッチング	AコースとBコースの間、CコースとDコースの間でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。
	購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。		課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 一定の要件を満たした公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。 AコースおよびBコースはNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。CコースおよびDコースはNISAの適用対象ではありませんので、ご注意ください。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		投資者が信託財産で間接的に負担する費用											
購入時手数料	購入金額(購入申込日の翌営業日の基準価額×購入口数)に以下の手数料率を乗じた額とします。	運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 年1.4575%(税抜1.325%) の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、AコースおよびBコースは毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のとき、CコースおよびDコースは毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>購入代金</th> <th>手数料率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1億円未満</td> <td>3.30%(税抜3.0%)</td> </tr> <tr> <td>1億円以上5億円未満</td> <td>1.65%(税抜1.5%)</td> </tr> <tr> <td>5億円以上</td> <td>0.55%(税抜0.5%)</td> </tr> </tbody> </table>		購入代金	手数料率	1億円未満	3.30%(税抜3.0%)	1億円以上5億円未満	1.65%(税抜1.5%)	5億円以上	0.55%(税抜0.5%)	その他の費用・手数料	信託事務の諸費用等	法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、AコースおよびBコースは毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のとき、CコースおよびDコースは毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
	購入代金		手数料率										
	1億円未満		3.30%(税抜3.0%)										
1億円以上5億円未満	1.65%(税抜1.5%)												
5億円以上	0.55%(税抜0.5%)												
※購入代金=購入口数×基準価額 +購入時手数料(税込) ※スイッチングによる購入の場合は無手数料とします。	売買委託手数料等	組入有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、ファンドから支払われます。 ※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。											
信託財産留保額	ありません。												

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみならずがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託および当資料に関する注意事項

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客様向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、当資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 「T. Rowe Price」「INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標または登録商標です。当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

当資料で使用している指数・データについて

- ロンドン証券取引所グループ・ピーエルシー及びそのグループ企業（以下「ロンドン証券取引所グループ」または「LSE Group」）。©LSE Group 2024. Russell 1000®（ラッセル1000）は、ロンドン証券取引所グループのメンバー企業の登録商標であり、使用許諾ライセンスのもと使用を許諾された者が使用しています。ラッセル1000に関するすべての権利は、ラッセル1000を保有するロンドン証券取引所グループのメンバー企業に帰属します。ロンドン証券取引所グループ及びその使用許諾者のいずれも、ラッセル1000の誤記・脱漏について一切責任を負わず、いかなる当事者も当資料に含まれるラッセル1000に依拠することはできません。ラッセル1000を保有するロンドン証券取引所グループのメンバー企業の書面による同意なく、ロンドン証券取引所グループから得られたデータの再配布は認められません。ロンドン証券取引所グループは、当資料の内容を宣伝、後援または推奨するものではありません。
- S&P500インデックスはS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJ」）の商品であり、これを利用するライセンスがティー・ロウ・プライスに付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。ティー・ロウ・プライスの商品は、SPDJ、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P500インデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。
- 金融データと分析の提供はファクトセット。Copyright 2024 FactSet. すべての権利はファクトセットに帰属します。

世界産業分類基準（GICS）について

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグロウヒル・カンパニーズ傘下のスタンダード・アンド・プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

販売会社・運用会社

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

設定・運用は

NOMURA
野村證券

商号等：野村證券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号
加入協会：日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／
一般社団法人金融先物取引業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会



T. Rowe Price

商号等：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会／
一般社団法人投資信託協会